



広島オリーブ会

# オリーブひろしま

広島オリーブ会会報

第24号

2018(平成30)年5月26日発行

広島オリーブ会

事務局・☎730-0016

広島市中区鞆町10-11

(マザー薬局内)

FAX・082(221)1195

http://www.hiroshima-olive.info

## 美術鑑賞会~ひろしま美術館

2018年3月10日  
31回生 竹本辰三

# ミュシヤ展に参加して



初めて美術館鑑賞会に参加させていただきました。3月10日(日)でまだ春先ですが、快晴で暖かく、どこかに出かけないともったいないという、この上ない鑑賞会日和でした(花粉症なのでインドアがやはりうれいという事情もあります)。参加人数は27人で大いににぎわい、その中に僣越ながら、私の家内と息子も一緒にさせていただきました。

入館するときに学芸部長の古谷さんからユーモアに富んだ解説をいただきました。解説の内容としては、このたびのひろしま美術館の「ミュシヤ展」は昨年に東京の国立新美術館で紹介された『スラブ叙事詩』を取り上げたもの

とは異なり、ミュシヤが最も広く知られている演劇、広告用の版画、ポスターのデザインを主体に取り上げた展示会ということでした。

熱く語られていたひとつとして、ミュシヤが画家として描いた「絵画」よりもこれらのポスター用に描いたデザイン展のほうが、実は楽しめるというものでした。実際に鑑賞したところミュシヤがポスター用でなく描いた絵画が何点か展示されていました(事前にお知らせいただいたので、期せずして心の準備になりました)。

主役の美しい女性が真ん中にいて、過剰ともいえる装飾

用の草花が背景に配置される。演劇用のポスターであれば、さりげなく陰のある人物等が隅に描かれることで、何か起きるぞと暗示させる。そして極め付けとして華麗なフールドーム装飾を描いていく。まさにこちらのほうが私たちの期待する「ミュシヤ」です。

メインボーカルがいて、心地いい音色のギターがリズムを刻み、ベースが全体の迫力を出している、ドラムがエッジを効かせるといったバンドの楽曲構成のように、心をわしづかみにしてくれます。

もう一点、ミュシヤのポスター用の絵画は日本画と同様に人物などの縁取りをしつかりと描いている解説をいただきました。確かによく見ると、異常に太い線で、背景と人物を区分する線を描いています。多分、この線があることで、主役の人物が効果的に強調されているものと思えます。西洋の絵画(油絵など)であれば確かに縁取りはデッサンとして描くだけで、完成品では色彩をもって人物と背景を塗り分けていくような感じがします。今まではあまり意識することはありませんでした。

が、この太い線を違和感なく描き上げることで、ポスターを見る人の目を惹きつける、これが機能的アートなのかと、少し変わった気分になりました(ミュシヤが「絵画」として描いている作品にはこういった縁取りはありませんでした)。解説をいただいたことでずいぶん興味深く鑑賞できたような気がします。

お陰様で、家族一同、大変有意義な一日を過ごすことができました。

秋の登山  
曾場ヶ城山

11月19日(日)の朝、八本松駅に集合した6名は、予定よりも早く曾場ヶ城山山頂に到着しました。曾場ヶ城山は大内氏が1527年に築城した曾場ヶ城にちなんで名付けられた山です。もっとも、お城は標高600mというあまりに高所に築かれたので、僅か16年で廃城となったそうです。

山頂にはご年配の方々や家族連れの方がありました。当初はここで下山し、バーベキュー会場に向かう予定でしたが、ちょっと物足りないかなというところで、予定を変更して小倉山山頂付近から小倉神社に行き、神社で参拝して帰ろうということになりました。

ここからがドラマの始まりです。小倉山の山頂を通過し、行けども行けども小倉神社への下山ルートが見つかりません。そのうち、小雨がちらつき、風がビュービュー吹いてきましたので、私の頭の中では『オリーブ会登山メンバー遭難』という文字が点滅しはじめました。「これはい

けない」と思い、1kmほど引き返して下山ルートを探すと、斜度の緩い沢伝いの下山ルートが見つかりました。往路で見つけられなかったのは、分岐の目印が茂った枝に隠れ、大変見つけにくくなっていたことが原因でした。沢を下ると、あとは、距離はありますが、安全な林道ルートです。予定どおり源頼政の側室であった菅浦前(あやめのまえ)が祀られている小倉神社を参拝しました。

菅浦前は、源頼政亡き後、平氏の追討を受け、瀬戸内海を船で逃げて現在の三原市辺りに上陸、沼田川沿いを通り、最後は曾場ヶ城山山中に逃れました。その場所が京都の小倉山に似ていたため、小倉山と名付け、庵を建て、髪をおろし、西妙と名を改め、以降、78年の生涯を尼僧として生きまし

た。私たちが通ったルートを900年前に菅浦前も歩いていたのかもしれない。源平の世の移り変わりの中で波乱の生涯を遂げた菅浦前に思いを馳せると、はや午後1時、お腹も空いてきましたので、そここそ300mの階段を下り、4km先のバーベキュー会場に向かいました。結果、総距離16kmという登山となりました。今回は、私の妻の実家の近辺ということもあり、大変思い出深い行事となりました。また、同様の企画を提案したいと思えますので、その際は是非ご参加ください。

原爆死没者慰霊祭  
37回生 栗田博正

母校の前身である広島女子高等師範学校附属山中高等女学校の原爆死没者慰霊祭を、昨年も原爆の日(8月6日)、広島市中区の荒神堂で行いました。この日には広島オリーブ会役員・有志、山中高女OB、遺族、町内会の方々など約80人が集まり、慰霊の気持ちを捧げました。福山附属中・高校からは、名倉学友会会長

ら3人と先生にも参列いただき、名倉会長が追悼の言葉を述べるとともに、全校生で折った千羽鶴を捧げました。8時15分には市内でサイレンが鳴り響く中、参列者全員で黙祷し冥福を祈りました。

この慰霊祭は橘香会の意思を引き継ぎ、2006年から広島オリーブ会の主催で開催しております。慰霊の灯を絶やさないためにも、会員の皆様のご協力、ご参列をお願いいたします。今年も8月6日午前8時から実施します。

西条酒まつり  
美酒銅を味わう会

10月8日(日)、酒まつりで賑わう中、7回生の越智先輩をはじめとする11名がふく政に集合しました。16回生の石井先輩がご存知のお店ということもあって、お店からお酒のプレゼントもいただき、さすがに西条のお酒はおいしく、2次会はカラオケボックスでの大騒ぎとなりました。

(32回生 佐藤啓之)

# 岡山オリーブ会の発足に想う 岡山と広島がつながる



ならばノリの違いが相  
当であったと思う。

岡山県の友人宅に招か  
れた際に、家族の言葉を  
聞いて新鮮な驚きを感じ  
た記憶がある。色々な場  
面でカルチャーショック  
を受けていたのだ。

社会活動が広がった  
現在では、秘密のケン  
ミンSHOW以外には、  
県民性の違いは問題に  
ならない。競争意識の  
源は、隣同士というこ  
と以外にはない気がする。  
隣の芝生が気にな  
る。境界線にこだわり  
たい心理だ。

遠くの親戚より近くの他  
人。隣人ゆえに連携協力する  
ことに意義がある。両県は瀬  
戸内海に面し、中国山地でつ  
ながっている。共有する資源  
の中でも、特に人的資源の相  
互活用を図るべきだ。我々は  
備南のあめつちのもので、ど  
よんでいだけではない。母  
校は人材をつなげ切磋琢磨す  
る装置でもあったのだ。

この度の岡山オリーブ会の  
発足に際しては、微力ながら  
広島オリーブ会がお手伝いし  
た。

昨年7月23日(出)、岡山市のA  
NAクラウンプラザホテル岡  
山での設立総会は盛況であっ  
た。出席者への配慮も行き届  
いていた。広島から約10名が  
参加してエールを捧げた。

準備段階から色々とお世話  
をされたメンバーと、趣旨に  
賛同してご多忙の中を募集さ  
れた方々に、心から敬意を表  
したい。ゆるゆるとスタート  
しても底力が大きいので、飛  
躍的な発展が期待される。そ  
れが岡山人の特徴なのかも知

れない。  
広島オリーブ会は、対象会  
員を広島市とその周辺に限定  
せず、広島全県と山口県の  
一部も含める予定だ。岡山オ  
リーブ会と連携すれば、中国  
地方全体をカバーする目標が  
できる。

素直に言えば、ともかく仲  
間が増えればうれしい。  
遠く七つの大海と瀬戸内海  
の水がつながること、東京  
と関西と岡山と広島のア  
ブ会の輪をつなげて福山附属  
の名を広げていくのが、私達  
の使命ではないか。

10月15日(日)秋のゴルフコン  
ペが本郷カントリーにて開催  
されました。今回は15名の参  
加となりました。優勝は、34  
回生の町原亮さん。グロス  
103、ネット71での勝利で  
した。ご本人曰く、「今日は  
雨だったので、本来の実力を  
発揮することができず、スコアが  
安定しました。34回生の幹事  
年からできるだけ参加して  
おり、次回以降も参加してい  
きたい」とのこと。家族、友  
人のご参加も大歓迎！皆様  
奮ってご参加ください！  
(32回生 佐藤啓之)

広島  
オリーブ会  
恒例  
ゴルフコンペ  
(in本郷カントリー)

順位	優勝	準優勝	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	14位	15位
町原亮	横山光彦	吉川善弘	佐藤啓之	岡田晋治	山本大輔	岩田洋子	岡山博子	八杉博久	佐藤真実	佐藤真実	佐藤真実	佐藤真実	佐藤真実	佐藤真実	佐藤真実
100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0	0	0	0	0	0

第33回  
広島オリーブ会  
総会を開催しました

2017年の広島オリーブ  
会総会(第33回総会)は、5  
月27日(日)17時から、前年と同  
じく「ホテルセンチュリー21  
広島」で開催され、79名の方  
が参加されました。開催幹事  
は、37回生(平成元年卒)で  
した。

母校、オリーブ会本部か  
ら、ご来賓にお越しいただき、  
総会の議事もつつがなく進行  
し、法律問題についてのミニ  
講演もあり、懇親会では、長  
寿祝いの贈呈、抽選会なども  
開催され、母校・同窓生との  
絆を確かめる良い機会となり  
ました。(37回生 栗田博正)

第34回  
広島オリーブ会  
総会を開催します

広島オリ  
ーブ会ならび  
に橋香会の皆  
様、2018  
年の第34回総  
会(平成28年卒)が幹事を務め  
させていただきます。

日(5月26日)17時か  
ら、例年と同じ「ホテルセン  
チュリー21広島」で開催いた  
します。

最初はこの幹事役に不安で  
いっぱいでしたが、これを  
きっかけに長らく連絡を取っ  
ていなかった同級生とのLINE  
NEが始まり、友人たちの近  
況を知ることが出来ました。

さらに卒業以来の時間経過  
を実感し、自分が福山附属を  
卒業したころの親の年代に  
なったことに多少の動揺を覚  
えつつも、いまだ気持ちは高

校生のままでいることも再発  
見いたしました。  
こうした新たな出会いや発  
見をもたらしてくれる「同窓  
会」の存在に感謝する今日こ  
の頃です。

今回の総会では、先輩方の長  
寿のお祝いとして記念品の贈  
呈を行うほか、講演会もあり、  
懇親会では恒例のお楽しみ抽  
選会なども開催し、盛り上げ  
ていきたいと思います。

広島オリーブ会の佐藤会長  
をはじめ幹事会ご出席の先輩  
方のご意見も頂戴しつつ、藤  
本事務局長他の方々の絶大な  
ご支援もいただきながら、  
皆様に楽しい時間をお過ごし  
いただけるよう、幹事として  
38回生一同頑張りたいと思  
いますので、何とぞよろしくお  
願いします。(38回生 実森ふみ)

親しく集える  
中間の輪を



広島オリーブ会  
会長 佐藤克則

皆様、お元気で活躍のこ  
とと、お慶び申し上げます。  
広島オリーブ会も設立以来  
年次を重ね、段々と若い人が  
活動の中心となって参りまし  
た。数多くの行事を催してい  
る当会としては、こうして事  
業を受け継いでいただけるの  
は、何より有り難いことなの  
です。

一方でお元気な先輩方とお  
会いするにつけ、自分の頑張  
りの無さを反省するととも  
に、いつまでもお付き合い願  
いたいと思う次第です。

## 「きっ川」食事会&吉川修平さん(5回生)慰労会を行いました

「きっ川」が閉店しました。  
正しくは、「二代目きっ川」  
に移行しました。店主である  
5回生の吉川修平さんは、マ  
ツダを定年退職後においしい  
魚料理でもてなす場を提供し  
たいと、本通りに「旬魚きっ  
川」を開かれました。真にお  
いしいものを追求するその姿  
勢が吉川さんの絶妙な料理解  
説が加わり、さらにはパブル

という時代の波にも押されて  
お店は大繁盛。その一方で、  
土曜日に行われるオリーブ会  
総会にはなかなか出席が叶わ  
ない、というジレンマもあっ  
たことと推察いたします(私  
見です)。さて、当時は若かつ  
た吉川さんも、20年の月日を  
経てさすがに少しお疲れが出  
てくるこの頃、ついにお店を  
閉じる決心をなさいました。

が、世間はそれを許さず、結  
局は若い人に主軸を移し「二  
代目きっ川」として新たなス  
タートを切られました。  
前置きが長くなりましたが、  
吉川さんのお店には我々  
オリーブ会の面々も大変お  
世話になりました。そこで、  
2017年7月15日、吉川さ  
んの慰労会を兼ねた食事会を  
有志で行いました。皆さんに  
声をかけたところあつという  
間に14人が参加表明されまし

た。楽しみに出かけると、な  
ぜか15席用意されています。  
「あの、14人なんですけど」  
：「今日はわしも客じゃあ」。  
そうだった、失礼！納得！！3  
回生から37回生まで、今まで  
の労をねぎらいながら、さら  
には附属の昔話に花が咲き、  
ワイワイとお腹いっぱいいた  
だいて、あつという間に終了  
時間。気がつけば料理の写真  
を全く撮っていなくて、紙面  
で紹介できないのが大変残念  
です。代わりにいい気持ちで  
ほろ酔いの熟年男女の写真を  
添付します。  
「二代目きっ川」は時代の  
流れに乗って、より庶民的な  
お店がコンセプトだそうで  
す。もちろん吉川さんにも会  
えますよ！「二代目きっ川」  
/広島市東区山根町21-45、☎  
(082) 567-0002  
(29回生 藤本真真)

